

平成15年度第1回大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会

◆日 時 平成15年10月10日（金）13：30～16：00

◆場 所 春日野莊 天平の間

◆出席者 検討委員／6名の委員全員出席

関係機関／近畿中国森林管理局、奈良県、上北山村、三重県獣友会
環境省／近畿地区自然保護事務所長、他

◆報 告

(1) 平成15年度大台ヶ原自然再生検討会について

(2) 平成15年度大台ヶ原自然再生検討会森林生態系部会について

◆議 事

(1) 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（モニタリング調査）について

(2) 平成15年度個体数調整の途中経過について

◆議事概要 （会議は公開で行われた）

報告

○資料に基づき、平成15年8月、9月に開催された大台ヶ原自然再生検討会、同検討会森林生態系部会について事務局より説明。

議事（1）

○委員からの主な指摘

- ・生息密度の把握のうち、ルートセンサスは、昼間行うとその日の天候等の条件によりシカの観察数の変化が大きく、夜の方がシカも落ち着いていて変化が少ないので、まずは、昼夜とも実施した方がよい。
- ・行動域調査としてのGPS調査については、以前発信器を装着した13個体は老齢であり、これらの個体だけにこだわる必要はないと思われる。装着個体の選択方法について、別途専門家と相談すべき。
- ・捕獲個体調査については、これまでの調査内容を継続する。なお、年齢解析等のため、森林管理局の協力も得て、防護ネットにからんで死亡した個体の頭骨を集めなどのシステムをつくってほしい。防護ネットにからんで死亡するのは雄シカが多く、捕獲数の少ない雄シカの資料として活用できる。
- ・植生への影響把握調査に関しては、「緊急対策地区」については、より詳しい調査を行う自然再生推進計画調査のデータを活用する。「重点監視地区」及び「周辺部」の調査計画については、今後、作業部会を設け、再生の調査の方向も踏まえた上で検討する。従って、その調査は事実上來年度から実施することになる。作業部会には、本検討会の座長に加え、柴田委員並びに森林生態系部会の野間委員及び横田委員に入ってもらいたい。

議事（2）

○委員からの主な指摘

- ・アルパインキャプチャーと麻酔銃によるシカ捕獲数について、調査員一人あたりの

捕獲数を算出し、コストや効率性を確認すべき。

- ・効率的な捕獲方法については、今後の捕獲状況も見つつ考えることも必要。

○その他

- ・防鹿柵については、森林生態系部会では、再生の調査に必要な柵は設置するという話が出ていたが、被害防除のための柵も必要。このため、第2回森林生態系部会が開催される前に、本検討会において、再度、必要性やより簡易な工法等について検討し、同部会に提案することとしたい。
- ・森林生態系部会との関係について整理も必要。同部会から植生に詳しい横田委員に、こちらの検討会に加わってもらうのも一案。

[文責：環境省近畿地区自然保護事務所]